

“受診”から取り残される子どもたち

「全国学校健診後治療調査」より

2019年10月13日
全国保険医団体連合会

■「要受診」なのに“受診できない”子どもたちがいる

全国の学校で実施されている学校健診。その学校健診で「医療機関への受診が必要と診断されたにもかかわらず、受診出来ない子どもたちがいる」——。これは、全国保険医団体連合会が「全国学校健診後治療調査」に取り組んだことで明らかになったもの。

「要受診」と診断された子どもたちの未受診率は、眼科、耳鼻科、内科で約半数にのぼる（下表参照 **青字部分**）。特に視力検査や歯科健診では、「要受診」と診断された子どもたちが3割を超え、未受診は56～57%と6割近くあった（下表参照 **赤字部分**）。

■子どもの成長にとって障害になりかねない事例が多数寄せられる

具体的な事例では、「メガネがこわれたままテープでとめている」（京都府・小学校）「経済的理由で眼鏡等が買えない」（秋田県・高校）、「摂食困難で養護教諭が横につき細かくして食べさせる」（福島県・小学校）、「聴力低下を放置していて日常生活に支障」（大阪府・中学校）など、一見しても学力や体力、身体の成長にとって障害となりかねない事例が全国から多数寄せられた。「未受診の家庭は固定化されている。ネグレクトや貧困など、家庭環境が大きく影響している」（静岡県・小学校）といった貧困の問題を指摘する意見もある。

■国・自治体・地域が一体となった対策が求められる

こうした未受診の背景には、「子どもの健康状態に対する親の理解不足」「経済的困難」「共働き」「ひとり親家庭」「無関心」などの状況があり、事例が寄せられた子どもたちの多くが家庭に何らかの問題を抱えていることがうかがえる。そのため、子どもたちの学校健診後の未受診を無くし、健全な成長を保障するために、家庭や、保護者任せにせず、国や自治体、学校、医療者関係者、地域などが一体となった対策が求められる。

＊「学校健診後治療調査」は、全国の公立・私立の小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象に2019年4月1日～6月30日にかけて行ない、41都道府県・1,429校（回収率4.3%）から回答があった。

	要受診率	未受診率
眼 科	5.1%	47.6%
視力検査	33.3%	56.3%
耳 鼻 科	15.7%	50.8%
聴力検査	1.1%	35.0%
内 科	3.6%	50.5%
歯 科	32.0%	57.0%

眼科

経済的理由で「視力にあったメガネをかけていない」
「高価なので（購入は）無理」

眼科健診（視力検査除く）を受けた子どものうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった子どもの割合は 47.6%、視力検査の場合は 56.3% だった。

学校での子どもたちの様子では「メガネがあっていない」「経済的な理由で視力にあったメガネをかけている子が少ない」との報告と「（受診は医療費助成あるが）メガネ購入は補助がない」など大阪の調査同様に経済的な理由でメガネが買えない困難事例が報告されている。また、「漢字の読み書きで形が見えにくいため、書けない、覚えられないことで学力低下につながる」「黒板が見えにくく授業に集中できない」など、学習意欲に関わるような事例も報告されている。

地方の学校からは「保護者が医療機関に連れていくのが難しい（車で 40 分以上、電車で 1 時間以上、3 時間に 1 本等）」という報告もあった。

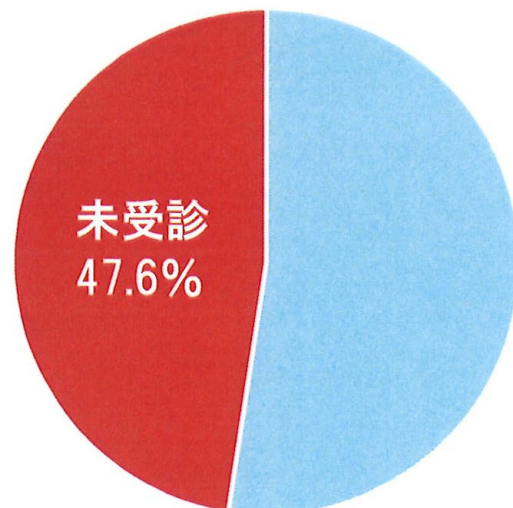
眼科未受診の事例は 517 件あり、授業などの影響は 128 件、経済的理由でメガネが壊れたまま・メガネが買えないと思われる具体的な事例は 43 件寄せられた。

眼科健診人数＝245,672人

要受診者数＝12,630人(5.1%)

未受診者数＝ 6,015人(47.6%)

受診	52.40%
未受診	47.60%

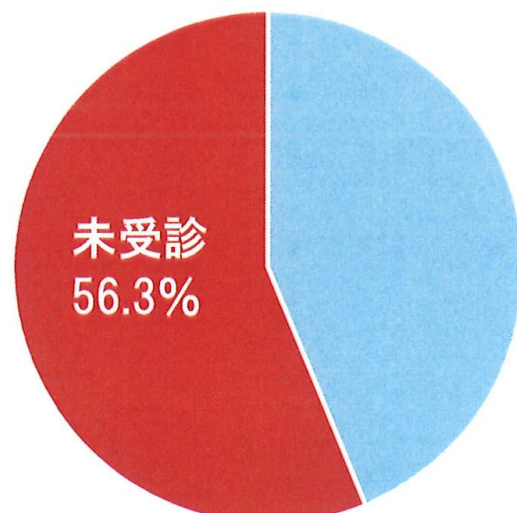


視力検査人数＝327,868人

要受診者数＝109,232人(33.3%)

未受診者数＝ 61,465人(56.3%)

受診	43.70%
未受診	56.30%



耳鼻科

鼻炎を放置して体調不良・悪化
授業に集中できない 学力低下も

耳鼻科健診（聴力検査除く）を受けた子どものうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった子どもの割合は 50.8%、聴力検査の場合は 35.0%だった。

養護教諭からの回答では「鼻炎を放置して頭痛で保健室に来る」「耳が痛いとか来室」など放置による体調不良や悪化で授業が受けられなくなったなど、保健室に来室する生徒の報告が 28 件あった。一番多いのは子どもの症状を軽く見て受診しないケースが多く、「仕事休んで（受診に）行けるわけない。これ以上関わらないで」との報告も複数あった。また地方では眼科同様に耳鼻科の医療機関がなく受診や健診もできない地域があった。

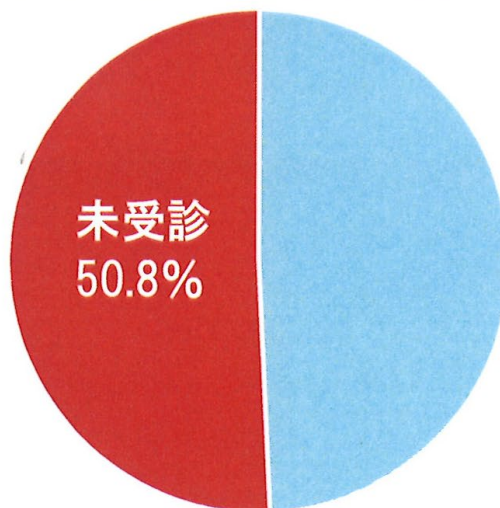
耳鼻科の未受診の事例は 167 件あり、経済的理由による未受診の具体例の記入はなかったが、鼻炎を軽く見て放置した結果、悪化・授業に影響する具体的事例が 36 件寄せられた。

耳鼻科健診人数＝197,820人

要受診者数＝31,152人(15.7%)

未受診者数＝15,821人(50.8%)

受診	49.20%
未受診	50.80%

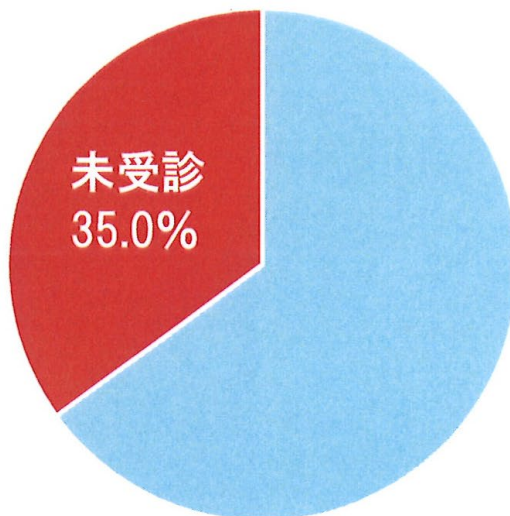


聴力検査人数＝240,894人

要受診者数＝2,702人(1.1%)

未受診者数＝947人(35.0%)

受診	65.00%
未受診	35.00%



各科関連

アトピー性皮膚炎／未受診で悪化 整形外科関係／整体で受療 心配

内科健診を受けた子どものうち要受診と診断されたにもかかわらず、未受診だった子どもの割合は 50.5% だった。

各科関連の具体的な未受診の事例は 232 件寄せられた。この中でアトピー性皮膚炎の事例が一番多く、「受診しないために子どもが手当てを求めて保健室に来る」「症状がひどく授業に集中できないが、家庭では受診せずに薬局で薬を買ってすませている」など、未受診で悪化している報告が寄せられている。

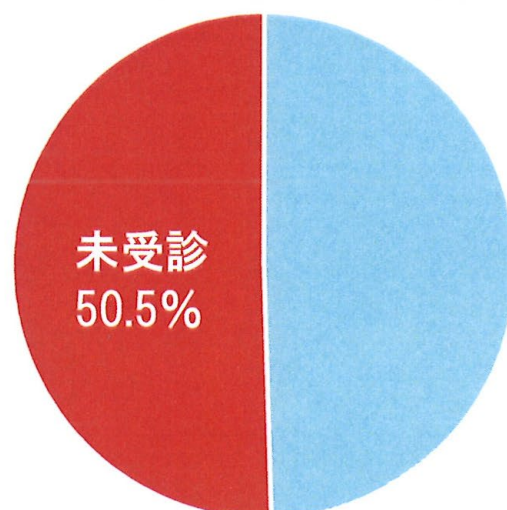
次に多い未受診の事例は「肥満」、「心電図異常」「尿検査」と続き、ほとんどが「受診勧奨をしてもなかなか受診に至らない」と心配する意見が多い。脊柱側弯症などの整形外科関係の事例もよせられており、医療機関に受診せず、整体などでの受療ですませて心配する意見もあった。またネグレクトや虐待の報告も寄せられている。

内科健診人数＝327,004人

要受診者数＝11,677人(3.6%)

未受診者数＝ 5,900人(50.5%)

受診	49.50%
未受診	50.50%



歯 科

口腔崩壊など、う蝕の多い子どもたちは 「家庭に何らかの問題」を抱えている

歯科健診を受けた子どものうち 32.0%が要受診と診断されたが、要受診の子どもたちの 57.0%が「未受診」だった。

また、口腔崩壊（むし歯が 10 本以上あったり、根っこしかない未処置歯があるなど咀嚼が困難な状態）の子どもたちの有無については、「いた」と回答した学校が 28.9%で全国の 3 割近くの学校に口腔崩壊の子どもたちがいる可能性があることが分かった。また人数が 873 人と報告されているが、回答率から推計すると全国で数万人の子どもたちが口腔崩壊に陥っている可能性がある。

近年では、子どものむし歯保有率は急激に減少している。むし歯の無い子どもたちも多い。

その一方で、極端にむし歯が多く、口腔崩壊を起こしている子どもたちが存在している。

事例では、「上顎が全部むし歯で病院に行くように勧めたら休むようになり、不登校になってしまった小学生」（大阪・小学生）、「給食で出されたものが噛み切れずに出血」（群馬・公立小学校）、「生徒がアルバイトをして、少しずつ治療」（北海道・公立高校）など、痛ましい事例が寄せられている。

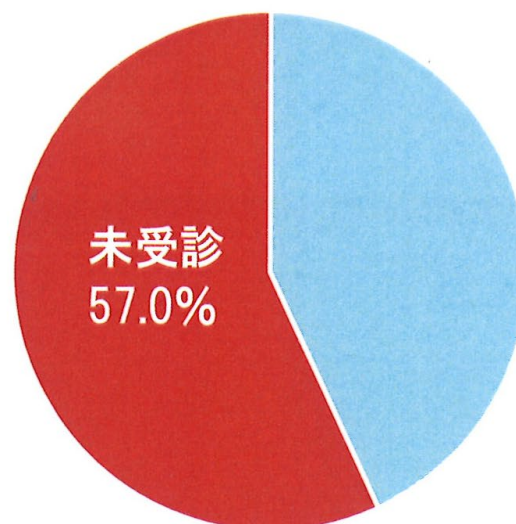
また、咬合異常があるが、矯正治療を受けていないとの報告もある。歯列矯正の場合は保険がきかないため、経済的な負担が大きいためではないか、と指摘する意見もあった。

歯科健診人数＝327,049人

要受診者数＝104,601人(32.0%)

未受診者数＝ 59,636人(57.0%)

受診	43.00%
未受診	57.00%

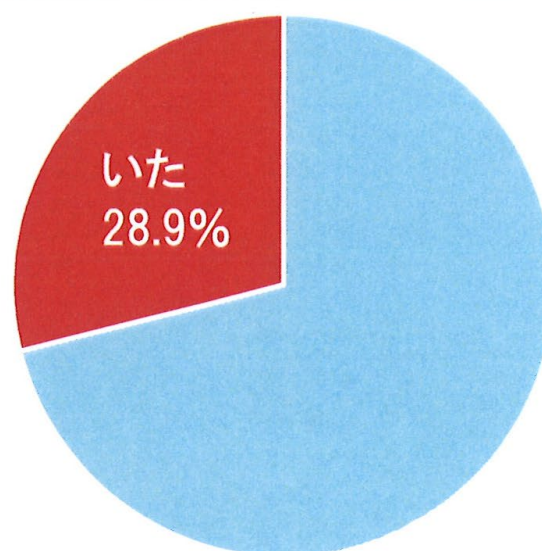


口腔崩壊の回答＝1,196校（NA233校）

いなかった＝850校(71.1%)

いた＝345校(28.9%)

いなかった	71.10%
いた	28.90%



未受診の理由

子どもたちの家庭の背景＝経済的理由・ひとり親・共働き…
国と自治体に求められる実態把握と対策

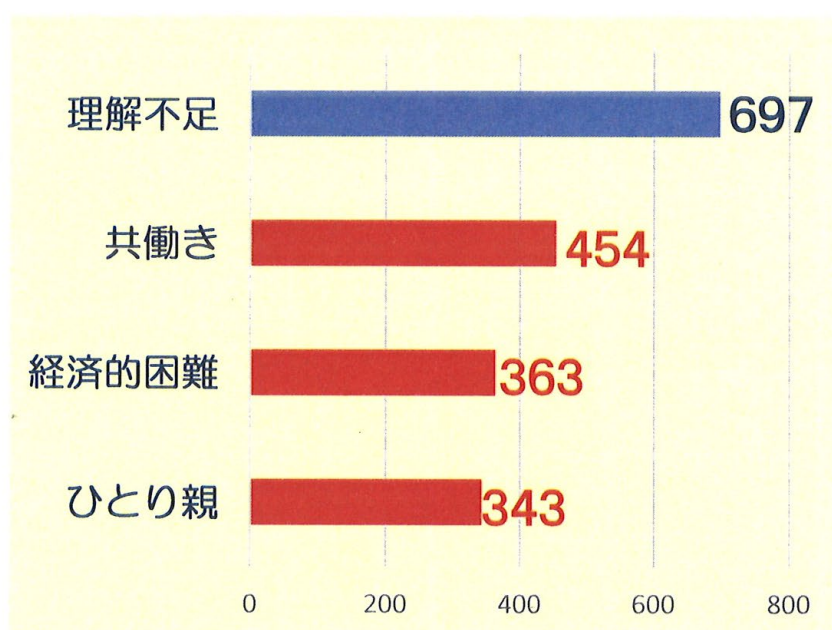
調査の中で未受診の理由を養護教諭に聞いたところ、一番多かったのは「健康への理解不足」だったが、「共働き」、「ひとり親家庭」、「経済的困難」など家庭環境を未受診の要因とする回答が多くあげられた。

“未受診”の子どもたちは、かならず家庭に何らかの問題を抱えていることは明らかで、こうした子どもたちへの対応は、家庭任せにせず、教育現場や地方自治体が連携し、実態を把握し、国・自治体の責任で解決することが求められる。

なお、地方においては、受診できる医療機関が近くになく、「保護者が医療機関に連れていくのが難しい（車で40分以上、電車で1時間以上、3時間に1本等）」という意見がいくつもあった。

未受診の理由(上位1位～4位)

理解不足	697
共働き	454
経済的困難	363
ひとり親	343



最後の自由意見欄では「(子ども医療費が) 無料であることで、受診勧告はしやすい状況なので、高校生世代までの医療費無料は重要と考える」(福島県・公立高校)、「(今回の調査で) 子どもの貧困対策としての必要な医療の提供体制の確保のために子ども医療費助成の拡充が重要との考えがあることを知りました」(和歌山県・公立小学校) など、「医療費助成があり受診勧奨がしやすい」との意見が目立ったことから、医療費助成が子どもたちの受診に大きな影響を与えていることが分かる。

今回の調査では、“未受診”がゆえに医療機関では“うかがえない”事例が全国の学校現場から多く寄せられるなど画期的な意義があった。特に具体的な記入はなくても、養護教諭からネグレクト(虐待までいかなくとも)を伺わせるような意見や、家庭の経済状況、やひとり親家庭での子どもの生活を不安視するたくさんの声が寄せられた。

眼科分野事例（一部抜粋）

医療費が助成される制度があるが、一旦自己負担しなければならないためか、それが困難で受診をしない家庭もある。受診は医療費助成があるが、眼鏡は本体又はレンズ交換など完全に自己負担なので、厳しい家庭もあるのかもしれない。	岩手県	中学校
経済的な問題で眼鏡等購入できない。	秋田県	高校
金銭面で新しい眼鏡が買えず、柄の部分テープでとめてかけている児童がいた。	栃木県	
湖南省では「子ども医療費助成」の対象が未就学児までとなっており、小学生は3割負担となっている。3割負担では保護者の負担が大きく、受診が難しい。また、共働きの家庭が多く、受診の時間確保さえも難しい現状です。	滋賀県	小学校
兄弟のメガネを使う（自分に合ったものではない）	大阪府	小学校
視力がD判定で児童に「病院行って診てもらった方がいいよ」と何度か声かけたが、児童から「お母さんがお金ないから無理と言われた」と言われ、何も言えなくなった。	大阪府	小学校
メガネの度数が合っていないが、経済的理由でレンズを変えられない（教科書代も払えない）	山口県	高校
本校の場合、中3まで医療費無償となっているので、病院受診に対する経済的困難を感じることはないのですが、めがね購入となると高価なので今は無理と言われ、あとまわしにされた生徒がいました。（めがねについては補助がないので…ですが、生徒の気持ちを考えるとかける言葉がありません）せっかく医療機関に行ってもその後のフォロー（めがね購入や定期受診の継続など）ができない家庭があり残念です。	愛媛県	中学校
メガネを買うお金がないと相談あり	沖縄県	高校

耳鼻科分野事例（一部抜粋）

頭痛を訴えて来室するが、耳鼻科関係の疾患からの症状も考えられ、休養だけでは改善せず困ることがある。	青森県	小学校
滲出性中耳炎、副鼻腔炎を患っている子どもの治療に日数を要することから、治療につながらないケース多い。学校でひんぱんに頭痛を訴える。	宮城県	小学校
鼻炎を放置していて頭痛で来室する生徒がいる。集中力低下	東京都	高校
年中頭痛・鼻炎など症状を訴え、来室する子が多くいます。耳痛があっても受診せず、毎日痛みで来室し、病院受診を勧めて初めて受診し、中耳炎などがひどくなっていることもあります。	大阪府	小学校
アレルギー性鼻炎から、慢性や急性の副鼻腔炎になり、学校で頭痛を何日にもわたって訴える児童がいる。季節性のものは、症状が出る前に耳鼻科に相談してもらえよう保護者に助言しているが受診は十分でない。鼻の粘膜が荒れて、たびたび大量に鼻血が出たり、鼻をかむためのティッシュを保健室によくもらいにくる児童もいる。	徳島県	小学校
慢性副鼻腔炎と診断されたにもかかわらず、病院を受診せず、頭痛を訴えて保健室に頻回来室する。鼻水を上手にかむこともできない。	大分県	小学校
鼻炎・副鼻腔炎による頭痛・体調不良を訴え、授業に集中できない。	宮崎県	小学校

その他分野事例（一部抜粋）

アトピー性皮膚炎の症状が強いが受診せずかゆみを訴えて保健室で手当てを受けることがある。	北海道	小学校
アトピー性皮膚炎で、兄弟がもらってきた薬を一緒に使っている。	福島県	小学校
毎年乾燥肌で受診勧奨しているが、市販薬で対応している。	群馬県	小学校
アトピー性皮膚炎のため湿疹が出ているが一般薬を使い受診せず本人はかゆみを我慢できず保健室に来て氷で皮膚を冷やしている。	千葉県	高校
アトピー性皮膚炎が疑われたが受診せず、市販のかゆみ止めのなんこうで対応しており、かゆみや湿疹がおさまっておらず辛そうだった。	長野県	中学校
重度のアトピー性皮膚炎だが、受診をされないため、子どもが手当てを求めて、保健室へ来室する。	広島県	小学校
腰痛を整形外科ではなく近所の整骨院で済ませ、だましだまし運動部の活動を続けてしまうこと（保護者の車で平日学校を休まなければ整形外科に行けない地域のため）	北海道	高校
脊柱検査で姿勢不良のため要観察の者、カイロプラクティック整体院を受診し、「姿勢体操を続けるようにと言われた」と母より報告を受けた。整形外科を受診して欲しかったのだが…	和歌山 県	小学校
内科検診が未受診で受診を何度も勧めて、やっと受診した。その後、家庭での虐待があったことが分かった。	富山県	高校
心臓検査の結果、要精検であったため勧告をした。数回にわたる指導でも受診しないため、徐々にキツめの指導になっていった（どうして受診しなければいけないのか等説明した）。学校負担金等未納家庭であることが後にわかり、父から母へのDVがあることもわかった。もっと別のアプローチもあったかも？と悔やんでいる。	愛知県	高校

歯科分野事例

う歯 10 本が 1 人、12 本が 1 人あり再三受診をすすめても未受診のままである。背景に経済的理由がありそうであるが、具体的な対応はしていない。	岩手県	高校
1 年生の時からお便りを出しているが、全く受診せず、経済的困難家庭の児童がある。	福島県	小学校
歯列についての受診勧告は、経済的に難しいとか、矯正の必要性を理解していない保護者が多い。	東京都	中学校
臼歯だけでなく前歯すらも虫歯になっており、においも気になった。 (医療費負担が) 3 割負担であるため、受診率も上がらない。歯(永久歯)は一生付き合っていくものなので、子どもたちのために負担(治療費)を減らしていただきたい。	滋賀県	小学校
むし歯が 12 本ある児童(1 年生)がいました。歯がボロボロで歯の根しか残っておらず、咀嚼が困難な状況でした。そのため、必要量のエネルギー(食べ物)を摂取できず、低体重・低身長にも該当していました。給食では養護教諭(又は担任)が必ず横につき、スプーンなどで細かくして食べさせていました	福島県	小学校
給食がかたい物になると食べにくい。そのため給食が負担になっている	京都府	小学校
給食を食べる時、かたいものでなくてもかむことが困難で、なかなか飲みこめない。量も少ししか食べきれない。	長崎県	小学校
9 本のむし歯と指摘される。治療をすすめるも受診する気配はなく、給食を泣きながら食べる場面あり、痛みのためうまく咀嚼できない場面が 2・3 日続く。別件で学校を訪れた母親の前歯も抜け落ちていた。	宮崎県	小学校